

自分らしく暮らせる日常生活圏域は住民主体で決めよう！

山も谷もなく、病院もスーパーも駅もある4km四方の穏やかな町は、危機感の少ない、体制整備事業の落ちこぼれの町でした。そんな町に、住民が主人公になった支え合いの芽が出た！原動力はやっぱり「自分ごと」。

A 体制整備状況

② 協議体の編成

「身近」は、自分たちが知っている！



【長野県小布施町】
人口 10,999人(4/1現在)
高齢化率 33.8%
・半径2km四方におさまる
長野県で一番小さな面積の町
・扇状地の地形に、27の地区
・小中学校は各1校ずつ

主人公は私たち！

長野県小布施町
松村地区協議体（第2層）

「ハッピーライフまつぼっくり」の皆さん

1 H29年度末、生活支援コーディネーターは追い詰められていた

H27年度から、第1層協議体の立上げに向けて、11回もの協議体準備会を開催したのに、形にならない…

こんな小さな町なのに、支え合いの仕組みが作れないのは、なぜ…？

さわやか福祉財団 SOS!

住民目線で、仕組みを考えていますか？

大切なのは、支え合いが続く仕組み！

2 行政が使う「日常生活圏域」を、考え直してみた

そもそも、行政がいう「中学校区」というくりは、住民の皆さんの日常生活圏域のイメージと合致しないのでは！？

「お役所用語」は、実態に合っていないからではないか？

役場・社協・生活支援コーディネーターは、スタート地点から再検討…

小布施町の皆さんにとっての「身近な支え合い」が生まれるにはどうしたら良いだろう？

3 方向転換！住民主体を考えて、まず、第2層から。町域レベルではなく、小さな地区単位でコツコツ勉強会をスタート

え！役場がなんとかしてくれるんじゃないの！？

自分の暮らしを支える仕組みなんだ！

顔が見えるつながりが、大切なんだね！

4 自分たちの暮らしを考える「協議体」が誕生！→しかし、「おらち(自分たち)に、できるんかい？」「無理だよ」と、不安を口にする皆さん…

一番大切なのは、私たち住民の想いだね！

皆さんは、どうしたいですか？

住民主体の協議体が機能するまで、生活支援コーディネーターは、とにかく伴走！行政の考えではなく、住民の想いを大切に、仕組みづくりをお手伝い

7ヶ月後

そして、これから

小布施町はようやく第2層協議体が1つ。でも、松村地区の住民の皆さんの活動は「想い」「行動力」「団結力」を教えてくださいました。

大切なのは、協議体をつくることではありません。その先に、**住民主体の支え合いが機能すること。**

丁寧な仕組みづくりが、実を結ぶ。プレず、あきらめず、進めていきます。

5 支え合いを目的とした仕組みと活動が、ザクザク出てきた！スタートした！

- だれでも食事会
- 認知症の勉強会
- 雪かき
- 見守り などなど
- 映画会
- 健康教室

「松村地区に暮らす子どもも大人も、だれもお互いを尊重して生活していくために、居場所づくりと支え合いを進めよう！」

小布施町第1層生活支援コーディネーター
(長瀬 大樹・伊藤 由花)
電話:026-242-6680